

ご寄付のお願い

～森の保育拠点『佐平館』再建のために～

令和七年一月一六日、私たちの森の活動の拠点である佐平館が焼失してしまいました。その後、たくさんの方のご支援を賜り、例年と同じ回数「森の保育園」「土曜学校」を実施することができました。今まで、そして現在も継続してご協力にご尽力いただいている全ての皆様へ、心より感謝申し上げます。(二〇二五年一月一六日以降の森の保育の様子はこちらから)

これまで一年以上、佐平館無しで過ごしてきた社会館・吾妻の保育園・土曜学校や各学童の子どもたち。「拠点が無い森の保育」の不向き・緊張感を十分味わい、楽しんでいるようにさえみえました。ですが、トイレや風呂を使いたい時、緊急時、荒天時、宿泊保育計画を立てる際には、やはり佐平館という「拠点」の必要性をひしひしと感じました。

佐平館焼失後、宮崎栄樹 前理事長(前社会館園長)は「子どもたちの為に出来るだけ早く完成させたい」「最後はニコッと笑って」これでよかった」と言えるようなものを作りたい」と、再建を即断しました。昨年の四月初めには佐平館再興についてのアウトラインをすでに描いていた前理事長。三月に入り佐平館跡を数度訪れてはイメージを膨らませていました。昨年四月一七日、佐平館跡を見に行ったら、翌々日に「設計事務所へ電話」というメモをその日のシャツのポケットに入れ、旅立った前理事長。その後、新理事長が計画を引き継ぎ、ようやく「新・佐平館」の設計図が完成。そして、あの難しい立地で建築の許可を得るに至りました。そして現在、二〇二六年二月より建築に着手したところです。ここまで、なかなか長い道のりでしたが、これからは、またひと踏ん張り。前園長も、あのぐりぐり眼を「ニコッ」とさせたり「カッ」と見開いたりしながら空から見ているような気がします。

左のイメージ図をご覧ください。こちらが再建される佐平館で、母屋と車庫・農機具庫、東屋の三棟を建築する予定です。竣工日は令和八年九月末を予定しております。

「屋根を急こう配にし、以前の佐平館を思い出せるような外観にしたい。そして中は以前とはまた違った新しい印象のもの。」これが、前理事長が描いた新・佐平館のアウトラインです。以前の、古民家を改造した佐平館は、まるで「田舎の祖父のお家」のようでした。昔ながらの佇まいでいつも森にあり、子どもたちの原風景となっていました。新しい佐平館もまた、これからの百年、再び子どもたちの「原風景」となってほしいとの願いを込め、現在再建にあたっています。

その建築費ですが、三棟すべての建築に、約一億五千万円の費用がかかります。昨今の物価高に加え、佐平館の難しい立地(谷津田の上に位置し、斜面に面しているという特殊な場所にある)での建築ということで、これだけの費用がかかることになりました。

この費用につきまして、大正会は過去一〇年以内に、①社会館新館の建設、②吾妻保育園の民営化にかかる大改修・③ポプラクラブ第二の移転にかかる大改修・④東清分館の再建、等々、大事業を続けてきた後に続く今回の再建計画とあって、法人の自己資金と借入金だけで賄いきるのが大変厳しい現状です。

そこで、佐平館の再建にあたって、皆様よりご支援を賜りたいと考えております。三棟分の柱と桁、屋根にかかる竣工費、約一千五百万円について、皆様のご寄付を賜りたいと考えております。ご縁がある皆様のお力を得て立つ『柱』を支えにして、佐平館を再建できたらと考えております。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

令和八年三月吉日

社会福祉法人 木更津大正会 理事長 吾津 恕榮
社会福祉法人 木更津大正会 業務執行理事 宮崎 際



ご寄付をいただいた方のご芳名は、「芳名板」へ記し、小屋裏・棟札の隣へ納めさせていただきます。「芳名板」とは別に、ご芳名をHPで公開予定です(公開の可否につきましては「寄付金申込書」にて伺います)。



再建予定地
2026年2月撮影



土蔵は一足先に修繕完了
2026年2月撮影

2026年度 森の保育園・土曜学校・学童 実施予定日数

- 社会館保育園 年長組 37名(50日/年)、年中組 34名(14日/年)、年少組 34名(10日/年)
- 社会館吾妻保育園 年長組 16名(19日/年)、年中組 13名(12日/年)、年少組 14名(6日/年)
- 土曜学校 学童 1年生～6年生 約130名(約42日/年)
- 社会館学童れんこんクラブ約140名・ポプラクラブ約110名・サンシャインクラブ約45名
→夏のお泊りや、それぞれの学童たんぼにて、田植え～収穫を実施予定